



「凡事徹底」の大切さ

経営の神様、パナソニック創業者の松下幸之助さんや、イエローハット創業者の鍵山秀三郎さんが座右の銘としていた言葉で、「凡事徹底」という言葉があります。特別なことではなく、ごく平凡なことを徹底してやり抜くという意味です。つまり、物事を成し遂げるには、当たり前前のことを当たり前前にできるか、徹底してできるかにかかっているということです。



③ わやかな「あいさつ」

松下幸之助さんは、取引先の企業を訪問された時、経営がうまくいっているかどうかを瞬時に見抜かれたというエピソードがあります。その理由は、至ってシンプルで、一つめは、従業員の「あいさつ」、二つめは、職場の「整理・整とん」、三つめは、トイレなどの「掃除」です。「あいさつ」を交わすことで、コミュニケーションの輪が広がりますし、整理・整とんをすることで、すがすがしい気持ちになります。また、トイレなど職場を美しくすることにより、心が磨かれます。つまり、当たり前前が当たり前前にできるかで、店の経営が分かるというのです。

この「凡事徹底」は、学校生活を送る上で、大いに参考になる考え方です。平凡なことでも長い間、ずっとやり続けていくことで、自分を成長させていくことができるのです。「繰り返しやり続けること」が重要なのです。

しかし、「三日坊主」という言葉もある通り、物事を徹底して続けるということは難しいことです。「少しぐらい手を抜いても…」「今回はできなくても仕方ない。」「みんなもできていないし…」等、いろいろな言い訳が邪魔をして、自分の成長の機会、可能性を奪うことも多々あります。

私たち教職員も「凡事徹底」を旨として「当たり前前前ことを当たり前前に徹底して行うこと」の大切さを子どもたちに理解してもらうために、自らが範となるように努力していきたいと思えます。

今週から、葦高小学校では、③ わやかなあいさつ、④ ずかなろうか、⑤ ばやい集合、⑥ っせ

とそうじ、⑦ ろったくつ箱を合言葉として、「あいさつ」「廊下歩行」「時間を守る」「掃除の徹底」「くつ箱の整理・整とん」という『凡事徹底』を全校で取り組んでいきます。

それぞれのご家庭でも、「我が家における『当たり前』とは何か？」を話題として、ご家庭でも、その『当たり前』をお子様実践できるようご支援いただければ幸いです。

校長 藤井 朗



④ ずかな「ろうか」



⑤ ばやい「集合」



⑥ っせと「そうじ」



⑦ ろった「くつ箱」